NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞記者による出前授業

2．学校名

大阪府立池田高等学校

3．実践者名（代表者名）

山崎　尚美

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

公民科(倫理)　55人

6．単元（本時の学習課題）名

「防災～いのちの大切さ～阪神大震災から15年」

7．目標（狙い）

新聞記事(特集・コラム・報道写真)や映像、記者のお話などを通して、防災・減災の重要性、いのちの大切さ、主体的な社会参加のあり方について考える。

8．評価の視点

・いのちのはかなさ・尊さについてあらためて身近な問題として考えることができたか。
・今生きている自分自身の「存在」や、これからの「生き方」について見つめ直すきっかけとなったか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1年間の学習のまとめとして、「現代の諸課題と倫理」について、具体的事象を通して考える。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)事前学習(1時間)
・ハイチ地震を報道する新聞記事を読む。
・読売新聞連載の「危機に立ち向かう～阪神大震災15年」の特集記事を読む。
・「阪神大震災全記録」(NNN報道特集)を編集したVTRを視聴する。
(2)読売新聞大阪本社編集委員　安富信氏によるパワーポイントを用いた講演(1時間)
・四川大地震を報道する毎日新聞掲載の報道写真の提示(フォトランゲージ)
・「震災を語りつぐ」企画で小学生に体験を語った2人の話を紹介した「今日のノート～敗北感と連帯感」(読売新聞のコラム)
・ボランティア活動などを紹介する動画などを用いた説明

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・震災直後の映像や、フォトランゲージ的に使用された写真はインパクトがあった。
・実際の取材や講演者自身の書いた記事をもとにした話の内容は深く、おおいに興味・関心を持った。
・その後の面接や小論文指導の際、この授業で考えさせられたことに触れる生徒もいた。

12．成果と課題

・50分という授業時間の制約があり、話す側にも聞く側にも不全感が残った。質疑応答など内容を深化させるためにはせめて90分は必要であった。
・15年という大きな節目であるとともに、当時まだ2～3歳であった生徒たちにはほとんど直接的な記憶が残っていない。災害の惨禍を風化させないためにも、若い世代に伝えていく機会を今後とも設けていく必要がある。